



2026年2月1日発行
(毎月1日・1回発行)
1988年1月27日第3種郵便物認可
定価50円
発行/
公益財団法人横浜YMCA
広報センター
〒231-8458
横浜市中区常盤町1-7
Tel 045-662-3721

横浜青年

YMCA NEWS



自らを愛し、互いを認め合う社会へ


一般社団法人日本たいわ協会代表 南山みどり



▲ピンクシャツデーの取り組みに参加するYMCA専門学校の留学生たち(横浜YMCA学院専門学校)

横浜YMCAでは、世界的ないじめ反対運動「ピンクシャツデー」に賛同し、いじめの問題を自分ごととしてとらえ、考える機会を大切にしています。この取り組みは一過性のものではなく、年間を通して人を大切にすることを育む活動を展開しています。今号では、子育て支援や生きづらさを抱える人への相談支援や自死遺族・当事者としての経験をもとに、支援活動に携わる南山みどり氏から、互いを認め合い、ともに生きるために大切なことを考えていきます。

南山みどり氏プロフィール
子育て支援や生きづらさを抱える人への相談支援を基盤に、いじめ・不登校・虐待・ヤングケアラー等の課題に長年取り組んでいる。自死遺族・当事者としての経験をもとに、自死予防および自死遺族支援にも携わる。家族関係形成支援「たいわカウンセリングルーム」主宰。一般社団法人日本たいわ協会代表。



経験した私は、その後、次男を自死で失いました。いじめや偏見、暴力、そして社会の無理解が重なり、息子は21歳で命を絶ちました。自死は本人の死で終わるものではなく、遺された人びとに解決のない苦しみを残します。

ピンクシャツデーは、いじめに反対し、誰もが尊厳をもって生きられる社会を目指すという意味を示します。そして人が人として生きる権利である「人権」、生まれた瞬間から誰もが「安心して生きていい」と認められている権利を再認識するよい機会でもあります。

ですから、いかなる理由があろうといじめを許してはいけません。互いの存在や個性、違いを尊重して、認め合い、自分らしく存在することを理念として掲げているのが、横浜YMCAの「互いを認め合い、高め合う『ポジティブネット』のある社会」だと思います。

ピンクシャツデーは、こうした現実から目を背けず、「いじめを許さない」という意思表示をするために、ピンクの服を着たり物を持つことにより、尊厳を守る側に立つという静かな表明をします。

人は皆、違いを持って生きています。しかし、その違いを認められず、尊重できずに排除の原因とすることでいじめが発生します。いじめ(ハラスメントを含む)は加害側の問題ですが、その人の存在そのものを否定する行為であり、心を壊し、生きていていいという感覚をも奪います。実際に、子どもの頃にいじめられた経験が、数十年にわたって心身に影響を及ぼし、寿命を縮ませてしまうことがあるという研究結果もあります。しかもいじめられる人だけでなく、いじめをする人・観衆・傍観者など関わる全ての人に影響を

私は自死遺族当事者であり、支援者でもあります。「自殺」ではなく「自死」という言葉を用いるのは、死にたくて死んだのではない。追い詰められ、死以外の選択肢が見えなくなった結果の死であることだと伝えたいからです。人権、とりわけ生きる権利が守られていれば、これほど多くの命が失われる社会にはならなかったと思います。

一方で、深い喪失やトラウマを経験した人が、その痛みを抱えながら、人生観や人との関係性に新たな意味を見いだしながら生きていくこともできます。心理学ではこれをPTG(心的外傷後成長)と呼びます。PTGとは、苦しみが消えることや悲しみを乗り越えることではなく、自らの人生に起こった出来事を受け入れることで得られる生き方です。それには自分自身を否定せず大切に扱い、ありのまま生きて、自他を愛することが何よりも重要だと思うのです。

幼少期から生きづらさを抱え、10代で自死未遂を

違いを排除せず、互いを認め合い、「安心して生きていい」と感じられる社会をつくっていきましょう。

いじめのない社会をめざして ピンクシャツデー

「ピンクシャツデー」は、2007年にカナダで始まりました。ピンクのシャツを着て登校し、いじめを受けた少年のために、先輩二人が「ピンクのシャツを着て登校しよう」と呼びかけ、賛同した生徒が、ピンクのシャツを身につけて登校した結果、いじめは自然となくなったそうです。この出来事があった2月の最終水曜日(今年は2月25日)を「ピンクシャツデー」としています。横浜YMCAでは、毎月最終の水曜日に継続して行っています。



横須賀市とともに取り組む ピンクシャツデー

NPO法人YMCAコミュニティサポートでは、横須賀市の市民協働モデル事業として、ピンクシャツデー運動による啓発事業を実施しています。横須賀市は、ピンクシャツデー運動の日・「いじめストップ」をスローガンとして、偶数月の最終水曜日に、いじめを根絶したい思いを、ピンク色のシャツ着用や小物を身につけることで「いじめ反対」の意思表示をしようと企業や自治会、学校、病院、市民活動サポートセンターなど地域で取り組んでいます。



みんなの良いところ探し 保育園に笑顔あふれる

横浜YMCAのアフタースクールや保育園ではピンクのシャツを着用することやピンクの小物を持つだけでなく、絵本の読み聞かせなどを通して心を育んでいます。幼保連携型認定こども園YMCAオベリン保育園では、昨年、絵本やピンクシャツの折り紙ができるコーナーを作り、保育園全体で参加できるようにしました。「みんなの良いところ探し」の取り組みでは、「いつも水道をしめてくれる」「やさしい」など友だちの良いところを見つけ、子どもたちの笑顔であふれました。



人権について学び 安心安全な職場づくり

横浜YMCAでは、12月に職員全体の人権研修を行いました。1日には、「安心安全な職場であり続けるために～ハラスメントの無い明るい職場環境を作るには～」をテーマに、上原孝氏(横浜地方検察庁人権擁護課・横浜市人権擁護委員)を招き、各種ハラスメントの対応について学びました。また、全国YMCAオンライン研修システムを用いて、人権をめぐるワークショップや子ども・障がい者・高齢者・女性の人権について学びました。



ホドス

YMCAには、いくつかの支援団体が存在する。その一つがワイズメンズクラブ(以下、ワイズ)である。ワイズはYMCAの支援・協力を主要目的として、米国オハイオ州トレドYMCA会員であったポール・ウィリアム・アレキサンダー氏によって1922年に設立された世界的な親睦・奉仕団体である。現在、世界76か国に約1500クラブ、2万5千人のメンバーを擁し、日本では134クラブ、2千人を超える会員が活動している▼ワイズのYMCA支援・協力は、キャンプ場などの施設建設・整備資金協力、スタッフ・リーダーの育成支援のほか、バザー・チャリティーラン等の各種プログラムへの参加など多岐にわたる。ワイズ自身がYMCAを設立した事例もある▼YMCAとワイズとの関係でもっとも重要な点は、ワイズメンバーは全員、YMCA会員になることが条件となっており、現に多くのメンバーがYMCA奉仕活動の中心となつて活躍している、という点である▼先行き不透明な現代社会にあつてYMCAは今後も時代のニーズにマッチした事業活動に挑戦していかねばならない。イエス・キリストの教えの実践を志したYMCAの先人たちは、教会の枠を超えて社会奉仕活動に乗り出す進取性があった。ワイズは、職業人あるいは家庭人として培ってきた知恵や経験を活かして、YMCAの社会改革エネルギーの発揮、高揚にいかんにか貢献してゆかか問われている。

(茂)

YMCA NETWORK NEWS

公正で平和な世界の実現目指す いじめ反対運動ピンクシャツデー



全国の小、中学校で不登校の児童生徒数は35万3,970人となり、過去最多を更新した(文部科学省)。これは、2024年度の「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」(以下、問題行動調査)で明らかとなった。増加は12年連続で、前年度比7,488人増、同省によると、前年度からの増加率は2.2%(前年15.9%)で大きく低下している。

増加の一因として文科省は、社会全体の意識の変化を挙げている。不登校の子どもに対する休養の必要性を示した教育機会確保法が2017から施行され、無理に登校しなくてもよいという考え方が広まったとみている。また、2025年度に新たに不登校になった小・中学生は15万3,828人と、前年度より1万1,472人減少した。新規不登校社の減少は9年ぶりであるが、子どもの異変に対する学校などの対応が十分でなく、登校できなくなったケースも依然として多いと

文科省は分析している。不登校対策として同省は、校内教育支援センターなど多様な学びの場の充実やスクールカウンセラーなどの専門職の配置拡充などを進めている。

また、パソコンや携帯電話などで誹謗・中傷を行う、ネットいじめの件数は、2014年度の7,898件から、2016年度には1万779件と1万件を超えた。さらに、2023年度には2万4,678件、2024年度には2万7,000件となり増加が続いている。SNSの普及や1人1台端末の利用拡大により、特に小・中学生の伸び率が大きく、いじめの内容が大人に気づかれにくい、より巧妙なものへと変化していることが報告されている。

横浜YMCAでは、いじめのない世界を目指し、いじめを「自分事」として捉え、2月に行われている世界的いじめ反対運動「ピンクシャツデー」に賛同し、全国のYMCAや地域とともに取り組んでいる。さらに、2022年からこの取り組み

を一過性のキャンペーンではなく、年間を通じて一過性のものとせず、毎月最終の水曜日にいじめや差別、偏見について日常の中で「自分事」として考える機会を設けている。保育事業やアフタースクール事業では、他者への思いやりや相手を大切にすることを育むもうと、絵本の読み聞かせや、どのような言葉が相手の心を傷つけるのかを子どもたちとともに考える時間を大切にしている。

また、神奈川県や横浜市、地域の企業や団体が主催する「ピンクシャツデー2026 in 神奈川」では、2月25日(水)午後1時から6時まで新都市プラザ(横浜駅東口地下2階)にてパネル展示などのイベントを行う。



▲(左)思いやりの気持ちを持つことの大切さを学ぶアフタースクールの子どもたち(2025年2月)
▲(右)いじめをなくそうと昨年も多くのメッセージが寄せられた

多様化する家族を地域で支える 鎌倉YMCAが子ども食堂を開催

横浜YMCAでは、「VISION2034」を掲げ、2034年にどのような社会になっていきたいかを実現するために取り組んでいる。基本方針1「子育てと子育て」の領域には、地域力を高め、子育てを地域で支えるプログラムの開発としての一つに、「地域とともに、多様化する家族に必要な支援を継続的に取り組む。」とある。

鎌倉YMCAでは、子どもの孤食や保護者の日ごろの負担軽減を図ろうと、12月26日に「かまくらっこ食堂」(後援 鎌倉市教育委員会/協賛 津な軽食堂かっちゃん)を開催した。会場となった鎌倉YMCAと隣にある津な軽食堂かっちゃんには、100人を超える子どもたちや家族が来場し、カレーを食べながら話がはずんだ。食事の前後の時間では、ユースリーダーの企画による「こども縁日」では、駄菓子の詰め放題や抽選会が

行われ、ロボット掃除機やキックボードなどの景品が当たると会場には歓声があがり、笑顔があふれる時を過ごした。

実施には鎌倉市社会福祉協議会や運営委員・事業委員、鎌倉ワイズメンズクラブのサポートがあった。



▲カレーを食べながら話が弾んだ(津な軽食堂かっちゃんにて)

リフレッシュキャンプに指導者派遣 能登半島災害被災地支援活動

横浜YMCAでは、全国のYMCAとともに能登半島災害被災地支援活動に取り組んでいる。1月10日から12日には、富山YMCA・滋賀YMCAが主管となって開催された輪島市在住の小中高生を対象とした「YMCAリフレッシュスキーキャンプ・立山スノーブリッジスキーキャンプ」が行われ、日本YMCA同盟からの派遣要請を受け、常田風花さん(横浜中央YMCAユースリーダー)と鈴木由希スタッフ(幼保連携型認定こども園YMCAいずみ保育園)を派遣した。今回が3回目の派遣となった看護師の鈴木スタッフは「震災で離れてしまった友だちとキャンプで再会できる喜びや複数回参加の子どもたちから成長を感じた」と述べた。



常田風花さん(はなリーダー)

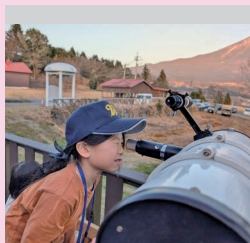


鈴木由希スタッフ

富士山 子どもの知りたい気持ち大切に 星空観察・炊飯体験

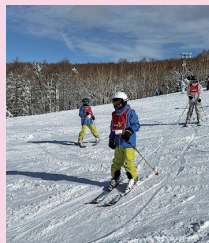
富士山YMCAグローバル・エコ・ヴィレッジでは、12月13日に「富士山きっずデイキャンプ~冬の星座を見よう~」が行われ、冬の星座や望遠鏡の使い方を学んだ。当日は雨天のため星空は見る事ができず、天文シミュレーションソフトを用いて冬の星空やふたご座流星群を観察した。このほか、チャック付きの袋と鍋を使った非常食の炊飯体験やレクリエーション・グループゲームも行った。

富士山YMCAでは子どもの「知りたい」「やってみたい」気持ちを大切にプログラムを実施していく。



横浜 仲間とともに成長感じる スキーキャンプ

12月26日から29日に冬季スキーキャンプを志賀高原・富士山YMCAグローバル・エコ・ヴィレッジにて実施し、総勢210人の子どもたちがスキーと冬の自然を楽しんだ。YMCAのキャンプは、青少年が互いのいのちを尊重し、信頼し合うことを学び、精神、知性、身体の「全人的な成長の場」となるよう行われている。キャンプでは、スキーや雪遊びを楽しんだほか、キャンプ生活を通して互いを尊重することや相手を思いやることなどを学ぶ機会となった。春季スキーキャンプは3月26日から行われる。(申し込みはHPにて受付中)



♪子育てランド♪ 心の栄養

子どもの健康とは単に病気がない状態ではなく心身ともに良好であることだと言われています。

そのためには生活習慣を整えることに加え、「心の健康」を育むことが大切とされています。体調を崩さないようにするだけでも大変な季節ですが、日常の中でできることから始めるのはいかがでしょうか。

例えば、暖かな部屋から一歩外に出て季節の変化を感じる。夜の動画を観る時間を少し短くして、絵本を読む(読み聞かせ)時間を作る。子どもが話しかけてきたら、

自分の時間は少しお休みとして子どもの声に耳を傾ける。大人がしたほうが早いと思われる片付けを手伝ってくれた時には、たくさんの感謝を伝える。これらの中で生まれる何気ないコミュニケーションが子どもの心の栄養となり心身の発達の土台となっていきます。

行動が変わると習慣が変わると言われています。無理なくスモールステップで大丈夫ですので生活の中で「心の健康」を育むことを意識する時間を作ってみませんか。(YMCAかわさき保育園

主任 佐藤智保)

YMCA NETWORK NEWS

戦後80年、過去から学び、未来の平和へつなぐ 会員大会-ピースフォーラム 2月11日開催



横浜YMCAでは、2月11日(水・休)午前10時から12時30分に、湘南とつかYMCAの会場とオンラインにて「会員大会-ピースフォーラム-」(主催 横浜YMCA会員事業委員会)を開催する。大会の準備は会員事業委員会(古賀健一郎委員長)が中心となり進めている。

「会員大会-ピースフォーラム-」は、YMCA維持会員、プログラム会員、YMCAに関心のある方を対象に、平和についてともに考え、学ぶ機会として毎年開催している。今年は、講演会、

アフタースクールの子どもたちによる広島ピースキャンプの報告、ウクライナニュースによるインターナショナルユースピースセミナー2025の報告、維持会員紹介をはじめとした横浜YMCAの報告が行われる。

講演会では、戦後80年を迎える節目の年として、当時の壮絶な体験談やその後の活動について学ぼうと「原爆被災者が語る平和とは」をテーマに、原爆被災者である青木清子氏(千葉ワイズメンズクラブ会員・市川被爆者の会事

務局長)を迎え、参加者とともに戦争の悲惨さや未来の平和について考えていく。会員事業委員会では、YMCAの会員が平和をテーマとして、被爆者の体験談や話を聞くことによって、社会の課題や地域の課題についての理解を深め、多様な視点から平和について学び、平和の意味と大切さをともに考える機会としたいとしている。



青木清子氏

参加費は無料。詳細・お申し込みは4面QRコードをご確認ください。参加ご希望の方は2月8日(日)までにお申し込みください。

開園20周年祝った 幼保連携認定 こども園 YMCA 東とつか保育園

横浜YMCAでは、県内に14園の保育園を運営しているが、幼保連携型認定こども園YMCA東とつか保育園が開園20周年を迎え、1月17日に、20周年記念礼拝・茶話会・卒園児、卒園児保護者、在園児によるワークショップと発表が行われた。

記念礼拝には、歴代の園長をはじめ関係者など76人が出席した。清水臣牧師(戸塚ルーテル教会)からは、「地域とともに歩む保育園としてこれからも子どもたちのそれぞれの賜物が育まれるよう取り組んでいきましょう」とメッセージがあった。茶話会では、歴史を振り返るスラ

イドの紹介や歴代の園長、関係者が開設当初の思いやエピソードを語った。佐竹博横浜YMCA総主事は20年間の多くの支えに感謝の言葉を述べた。茶話会後には職員によるバンド演奏でキャンプソングを歌ったほか、年長児によるすずめ踊り、卒園児対象のワークショップが行われ、215人の参加者とともに20周年を祝った。



▲記念礼拝・茶話会を終えて開園当初からの保育士や関係者、歴代の園長とともに20周年を祝った

ウクライナ全面侵攻から4年目 継続した支援活動を展開



2022年2月24日のウクライナへの全面侵攻が始まってから4年目を迎えた。横浜YMCAでは、当初より全国YMCAとともに緊急支援募金を開始した。ウクライナの人びとの避難生活が長期化する中、地域における生活者としての暮らしを支えようと、継続した支援活動に取り組んでいる。2月28日にはウクライナの現状を知り、横浜YMCAが取り組んできた支援活動について、また横浜市と姉妹都市であるウクライナ・オデーサ市にあるYMCAとの今後の交流について考える機会として、「The Voice of Ukraine-侵攻から4年、いまウクライナの人びとが思うこと」をオンラインで開催する。横浜、オデーサ、キーウで暮らすウクライナの人びとの思いをつなぎ、平和とは何かを考える機会とする。

ひとかき

水とタオル

総主事 佐竹 博

プロ野球2025年シーズンで最も心に残った出来事は、スーパープレーや劇的な展開、新しい指導者像と采配などではなく、ある試合の中継で岡田彰布さんが発したコメントでした。

試合終盤のある回、投手が打たれ交代、続いて登板したリリーフがピンチを招き、ベンチがタイムをかけ、投手コーチがマウンドに行った際のことでした。小走りでもマウンドに行った投手コーチはタオルとペットボトルを投手に渡して声をかけました。投手は汗をフキフキ、水分を口に含みコーチの声かけにうなずき、マウンドに集まっ

た内野手たちの励ましに返っていました。

岡田さんはその光景に「今出てきたばかりで何球も投げていない投手に水が必要か？それより、長いこと守られている野手たちにこそ必要なのではないか」という内容の発言をしました。「タオルと水」は、最近見るようになったように思いますが、全球団しているかどうかわかりませんし、その効果や必要性も「見るだけファン」の私は詳しくありません。投手以外の選手がどう思っているかなども身近に野球のなかった私にはわからないところではあります。一人腕を振って球を投げ続ける投手に対し

て一息つかせ、間をとる道具として配慮あるサービスなのだろうくらいに思っていました。しかし、水を飲みたいかどうかは別にして、もっと長い間、タオルと水分に接していない他の選手のことは、このシーンをこれまでに何度か見てきましたが、考えもしませんでした。

日々、あらゆる場面での出来事に気づきや学びがあります。当たり前と思いつくのではなく、理由や意図・意義を考え、本当にそうか・必要か、自分たちが誰かを弱い立場にしているか、などを考えたいと思ったのでした。

Topics 140years of HISTORY

国際平和年とYMCAの動き vol.23

横浜YMCAは、国際連合総会が1986年を「国際平和年」と定めたことを受け、国際平和年の動きに積極的に取り組みました。「国際平和年かながわ推進協議会」の委員長には、当時の横浜YMCA総主事であった吉村恭二氏が就任し、神奈川県内のさまざまなNGOや行政と連携しながら、国際平和年の推進に尽力しました。

横浜YMCAでは、国際平和年の特徴的な取り組みとして「新青い目の人形運動」を行いました。昭和初期に日本のYMCAと深い関わりをもっていた宣教師シドニー・ギューリック氏が、日米間の平和を願い、その象徴として米国の子どもたちから日本の子どもたちへ「青い目の人形」を贈ったことに始まります。この平和への願いが、当時の横浜YMCA職員であった大藤啓矩氏の働きかけにより、ギューリック氏の孫であるギューリックIII世とその妻に引き継がれ、「新青い目の人形運動」として展開されました。ギューリック夫妻は、要望のあった横浜市や熊本県内の小学校に青い目の人形を贈呈し、現地を訪れ子どもたちと交流し、平和の大切さや尊さについて考える機会をともに過ごしました。また、青い目の人形は横浜YMCAにも贈られ、「ジョナサン君」と名づけられました。



▲新青い目の人形「ジョナサン君」(1987年)

FLASH NEWS

横浜YMCA国際事業委員会では、12月23日にグローバルセミナー「日本にも人身取引があった？12歳少女人身取引事件からみえるもの」を開催した。齋藤百合子氏(大東文化大学特任教授)を講師に迎え、日本における人身取引の現状や、タイ国境地域で起きている課題などについて学んだ。また、児童保護プロジェクト「プロテクト・ア・チャイルド」の活動拠点であるタイ・バンコクYMCAバヤオセンターとオンラインでつなぎ、所長のセンワン・マニワンさんが、子どもの人権支援や加害者への法規制の必要性を語った。セミナーには36人が参加し、人身取引問題への理解を深めた。

横浜YMCAでは、2月16日(月)から26日(木)まで「南北 코리아 とかながわのともだち展」(主催 同実行委員会/NPO 法人地球の木・横浜YMCA)を横浜中央YMCA8階ラウンジにて行う。子どもたちが絵を通して25年間、心をなやませた絵の展覧会となります。詳細は4面をご参照ください。

ポジティブネットをひろげよう

今月のよくなる一歩

いじめのない世界を
目指そう

(Caring 思いやり)

ワイズコーナー

音楽通して生きる楽しみを 大和クリエイティブYサービスクラブ

県央の大和駅近くの大和YMCAを拠点として、特に音楽を通して広い年代の方々の居場所づくりを提供していきけるよう、日々活動しています。

昨年は大和YMCAのグループホームの皆さんに、民謡を三味線・太鼓・歌で大いに楽しんでいただきました。2024年11月24日に設立し、現在は2年目を歩み始めています。「青少年のためにYMCAにつくそう」という思いを持った仲間と今後はミュージカルをみんなで楽しむことを通して、居場所づくりができればと行動を始めています。

一人でも多くの方が生きる楽しみが持てるよう、ご一緒に活動して下さる方を広く募集しています。

(大和クリエイティブYサービスクラブ会長 小松仲史)

横浜中央YMCA Tel 045-662-3721
 横浜北YMCA Tel 045-433-4321
 藤沢YMCA Tel 0466-26-1151
 横須賀YMCA Tel 046-854-5126
 川崎YMCA Tel 044-932-2031
 厚木YMCA Tel 046-244-4181
 鎌倉YMCA Tel 0467-24-7859
 YMCA山手台センター Tel 045-813-1022
 湘南とつかYMCA Tel 045-864-4768
 金沢八景YMCA Tel 045-782-3003
 YMCA東とつかセンター Tel 045-392-3747
 大和YMCAライフサポートセンター Tel 046-264-3192

横浜YMCAワークサポートセンターアージュ Tel 045-867-0090
 横浜YMCAワークサポートセンターレザン Tel 045-860-5252
 YMCAあつぎ保育園オサナ Tel 046-222-8619
 YMCA山手台保育園アルク Tel 045-813-1022
 YMCAとつか保育園 Tel 045-870-3663

YMCAマナ保育園 Tel 045-790-3588
 YMCAとつか乳児保育園 Tel 045-870-3235
 YMCAつるみ保育園 Tel 045-500-5030
 YMCAかわさき保育園 Tel 044-520-1825
 YMCAいずみ保育園 Tel 045-800-3010

YMCA東とつか保育園 Tel 045-820-5588
 YMCA東かながわ保育園 Tel 045-440-3763
 YMCAたかつ保育園 Tel 044-281-7833
 金沢八景YMCA保育園 Tel 045-353-5130
 YMCAオベリン保育園 Tel 042-707-9974
 大和YMCA保育園 Tel 046-214-3192
 富士山YMCAグローバルエコヴィレッジ Tel 0544-54-1151
 三浦YMCAグローバルエコヴィレッジ Tel 046-888-2100
 鶴見中央YMCA Tel 045-508-7800
 YMCAライフサポートセンター鶴見 Tel 045-506-0131
 本部事務局 Tel 045-662-3721

INFORMATION

横浜YMCA



●感染症等の拡大防止のため、イベントを延期・中止させていただく場合があります。(参加費は税込み)

レクチャー

■発達・教育支援 発達障がい理解講座
 日時 2月20日(金)午前10時～10時45分
 会場 藤沢YMCAまたはオンライン
 内容 相談できる大人になるために
 参加費 無料
 後援 藤沢市教育委員会、藤沢市、横須賀市教育委員会、横須賀市社会福祉協議会
 申込み QRコードからお申し込みください。
 問合せ 横須賀YMCA Tel 046-854-5126

イベント

■会員大会 ピースフォーラム
 日時 2月11日(水・休) 午前10時～午後12時30分
 会場 湘南とつかYMCAまたはオンライン。
 対象 YMCA維持会員、プログラム会員、YMCAに関心のある方。
 テーマ 戦後80年「原爆被災者が語る平和とは」
 講師 青木清子氏(千葉ワイズメンズクラブ会員)
 申込み QRコードからお申し込み

ください。
 問合せ 会員大会事務局 Tel 045-864-4768
 ■南北 코리아 とかながわのともだち展【絵画展】
 日程 2月16日(月)～2月26日(木)
 平日 午前10時～午後6時
 土曜日 午前10時～午後5時
 ※初日は午後1時から。最終日は午後2時まで。
 日曜日 休館
 会場 横浜中央YMCA 8階ラウンジ
 主催 南北 코리아 とかながわのともだち実行委員会(NPO法人地球の木・横浜YMCA)

○2月21日(土)開催のこどもワークショップ・講演会の詳細はHPをご確認ください。
 ■かながわの朝鮮学校交流ツアー2026
 日時 2月14日(土)午前10時～午後3時
 会場 神奈川県立横浜高等学校
 内容 日本社会はなぜ朝鮮学校を守らなければいけないのか
 講師 田中宏氏(一橋大学名誉教授)
 主催 神奈川の朝鮮学校交流ツアー実行委員会
 申込み QRコードからお申し込みください。

■キリスト教理解
 ■とつか聖書を学ぶ会

日時 2月12日(木)午前10時30分～
 会場 湘南とつかYMCA 4階教室
 テーマ 聖書を楽しむ学ぼう
 講師 堀野浩嗣氏(横浜戸塚バプテスト教会牧師)
 参加費 無料
 問合せ 湘南とつかYMCA Tel 045-864-4768
 ymsports@yokohamaymca.org
 ○一緒に聖書を学んでみませんか。

子育て支援

■横浜子育てサポートシステム入会説明会
 日時 ①2月7日(土)午後1時30分～2時30分
 ②2月12日(木)午前10時～11時
 会場 中区地域子育て支援拠点のんびりんこ
 対象 横浜子育てサポートシステムに入会を考えている方
 申込み QRコードから事前にお申し込みください。
 問合せ 横浜子育てサポートシステム中区支部事務局 Tel 045-663-0676

■金沢八さく子育て練習室
 日時 2月4日(水)・2月18日(水)全2回
 午前10時～11時30分
 会場 横浜市金沢谷地区センター
 対象 子育て中の保護者
 内容 お子さんへの声がけなど、コミュニケーションの練習室
 主催 金沢区地域子育て支援拠点とことこ
 問合せ Tel 045-780-3205


学校説明会

■YMCA健康福祉専門学校
 日程 2月7日(土)・21日(土) 午前10時～/午後2時～
 内容 入試説明・学校見学
 申込み QRコードからお申し込みください。
 問合せ Tel 046-223-1441
 ■横浜YMCA学院専門学校 国際情報ビジネス科
 【オープンキャンパス・学校説明会】
 日時 2月7日(土)21(土)午前9時30分～11時30分
 【オンライン学校説明会】
 日時 2月5日(木)・19日(木) 午前10時～12時
 2月10日(火)・24日(火) 午後2時～4時
 申込み QRコードからお申し込みください。
 問合せ Tel 045-661-0080
 ○専門学校では入学試験を実施しています。詳細はHPをご確認ください。

【訂正して、お詫びします】
 YMCA NEWS1月号6面のMyYStoryでカルナタク・スハニシさんとあるのは、カルナタク・スハニシさんの誤りでした。


飾り付けづくりで新年を祝うみどりクラブ

1月に行われたみどりクラブでは、皆でクリスマスと新年を祝う飾り付けが行われ、年末年始をどのように過ごしたかを語り合うなど、和やかな時間を過ごしました。また、参加者がそれぞれウクライナの伝統料理を持ち寄り、食事を楽しみながら、昨年のみどりクラブの活動や、屋形船クルーズ(国際ロータリー第2590地区による支援)・リフレッシュキャンプの写真を鑑賞しました。その後、横浜市東本郷地域ケアプラザ(横浜YMCA指定管理者)のスタッフによる体操を行いました。



ユースの活動の機会をサポート 青少年指導者養成基金

子どもたちの健全な成長につながる青少年活動には、その導き手となる優れた指導者の養成が必要です。横浜YMCA青少年指導者養成基金(青少年基金)は、指導者養成のために行われる研修参加のために基金を用いて支援を行っています。2025年度は、ユースボランティアリーダーズフォーラムや広島ユースピースセミナー、三都市YMCA会議・ユースキャンプなどの活動に基金が活用されています。今後も活動の機会につながるよう基金への支援を受け付けています。



140years of HISTORY

横浜YMCAは2024年10月に140周年を迎えました。140年のあゆみを写真で紹介いたします。



▲異文化理解プログラム「ランゲージマラソン」では、4年で30か国を超える国が紹介された(1991年12月)

My Y Story

193



多くの支えに感謝。YMCAの活動で学んだスキルを母国で活かしたい

横浜YMCA 国際・地域事業
ウクライナユース
LILIA HORLO
(リリア・ゴルロ)

私はウクライナのキーウ出身で、先に横浜YMCAで働くウクライナ出身の友人から誘われたことがきっかけで2024年5月から横浜YMCAで働き始めました。当時、私は日本語学校に通い、日本語を実際に使える場所や社会とのつながりを持てる機会を探していました。家にこもって、母国で起きている戦争のことばかり考えてしまわないようにするためでもありました。

横浜YMCAでは、ウクライナに関わるさまざまなプログラムに携わる機会があります。ウクライナの現状についての情報発信や自分の体験を伝えること、戦争を避けて日本に来て生活しているウクライナの人びとを支えることはとても重要で、遠く離れた場所にながらも、何らかの形で支援ができることを大切に考えています。私は働くことを通して日本語を実践的に使い、多くのスキルを身につけてきました。具体的には、スピーチ力やコミュニケーション能力、企画・運営力、通訳・翻訳の経験、子どもと関わる仕事を通して教えることや伝えることの大切さ、ワークショップを実施することです。また、横浜市内にあるYMCA

の保育園やアフタースクール、高齢者や発達障がい者の就労支援施設などの見学を通して、さまざまな立場の人びとを支えるために、多くの努力と時間がかけられていることに、心から感動しました。夏には、ウクライナの子どもたちと一緒にキャンプに参加し、引率として関わる機会もありました。将来は、これらのアイデアや方法をウクライナで活かしたいと思っています。私たちが3年間にわたり、毎月「みどりクラブ」というウクライナの人に向けた居場所づくりを続けていることも、私にとって大きな喜びです。そこでは交流を深め、日本文化を学び、同時に自分たちの文化を共有することができます。今後は、昨年つながったオデーサYMCAと横浜YMCAのかけはしとして取り組んでいきたいと思っています。YMCAには、困った時や分からないことがあった時に、助けてくれる人がいると感じています。皆さまからの支えは、戦争と移住による大きなストレスの中で、私の心の状態に良い影響を与えてくれました。皆さまからの募金や支援に心から感謝しています。

▲メッセージ後に保育園の子どもたちと交流(2024年11月)